

会務報告

I. 日本珪藻学会第41回大会の中止について

日本珪藻学会第41回大会（つくば：辻大会実行委員長）が2020年5月16, 17日に、国立科学博物館筑波研究施設で行うことで準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学会員の健康を第一に考え、中止となった。

II. 2020年度運営委員会

1. 第1回持ち回り運営委員会（メール審議、3月13日発信）

審議事項

①第41回大会の中止について

実行委員の辻氏と齋藤氏から、大会を中止したいとの意向を受け、運営委員からの意見を踏まえ、会長が中止とすることを決定。中止については、既に参加申込みをした会員にはメールで知らせ、同時に学会HPでも広く告知する。

②総会について

通常、春の大会時に総会を行っていたが、大会が中止となったため、秋の研究集会時に行う予定とする。但し、現時点での研究集会の候補地も未定である。

③今後の予定

決算案、予算案、秋の研究集会については、5月中旬頃までに持ち回り委員会を開き検討する。

2. 第2回持ち回り運営委員会（メール審議、6月10日）

出席者：会長：出井雅彦、会計幹事：豊田健介
運営委員：大塚泰介、長田敬五、齋藤めぐみ、佐藤晋也、辻 彰洋、豊田健介、伯耆晶子

【報告事項】

1) 会員状況

会員のより正確な把握のため、新たなソフトで会員名簿の再構築を進める。

2) 編集委員会

3) 会計状況

4) 2020年度大会および研究集会について

①日本藻類学会第41回大会（つくば）の中止

②第40回研究集会について

通常通りの開催は諦め、11月頃にオンラインにより開催する。実行委員（出井、豊田、佐藤）がオンライン開催に当たっての問題点を洗い出し、実施要項の大枠を6月中に運営委員会に報告することになった。

5) 日本分類学会連合参加報告

2020年1月11日（土）に国立科学博物館上野本館2階講堂で開かれた日本分類学会連合の年次総会に出井が出席した。2019年度及び2020年度の活動報告がなされた後、2019年度決算と2020年度事業計画、予算、次期役員について審議され、提案通り承認された。

6) 日本珪藻学会学会賞

2020年度日本珪藻学会論文賞は、一次選考においてノミネートされた4編について二次選考を行ったが、過半数を超えた論文がなかったため、該当なしとなった。

7) その他

【審議事項】

1) 2019年度決算

会計幹事より決算案が示され、審議された。会費収入が2020年3月末締めでの決算案であったため、これを2019年12月31日締めに変更し、次回の運営委員会に提案することになった。

2) 2020年度予算

2019年度の決算の修正を元に、再度予算案を作り直すことになった。会費収入は出来るだけ100パーセント納入を目指した予算案にすること、そのためにも正確な会員数の把握に務めることが求められた。

3. 運営委員会（オンライン、12月5日10時～11時）

第40回研究集会に合わせ、オンラインにて運営委員会を開催した。

出席：出井雅彦（会長）、大塚泰介、長田敬五、齋藤めぐみ、佐藤晋也、辻 彰洋、豊田健介、伯耆晶子

欠席：後藤敏一（会長委任）

【報告事項】

1) 会員状況

豊田幹事より報告があった。会員名簿の更新、情報の整理を進めたため、一般及び学生会員が減少した。今後も整理し、実会員数の正確な把握を進める。

2) 編集委員会関係状況

佐藤編集長から36巻の編集状況について報告された。

3) 会計状況

豊田会計幹事より、2019年度決算案と2020年度予算案の説明があった。

4) 大会および研究集会開催地について（報告済み）

5) 日本分類学会連合参加報告（報告済み）

6) 日本珪藻学会学会賞（一部報告済み）

会長より、今回の研究集会で最優秀発表賞を選出し、表彰することが報告された。

7) 会長・運営委員選挙結果

8) その他

【審議事項】

1) 2019年度決算案について

決算案について審議し、承認され、総会に諮ることを決定した。

2) 2020年度予算案について

予算案について審議し、承認され、総会に諮ることを決定した。

3) 2021年度大会及び研究集会の開催地について

来年度の大会・研究集会は、実施するが、形式は

未定。大会については、今年中止となったつくば大会を念頭に、検討するが、コロナウィルス感染状況の見通しが立たないため、現時点では未定とし、4月上旬まで決定し、告知することとした。

- 4) その他
学会本部の住所を変更することが提案され、承認された。

III. 2020年(令和2年)年度総会(オンライン)

2020年度総会が、第40回研究集会(オンライン)中の12月5日(土)に出井雅彦実行委員長を議長として開催された。

【報告事項】

- 1) 会員状況
豊田健介幹事より以下のような会員状況が報告された。普通会员178名(一般会員138名, 学生会員31名, 奨学会員3名, 家族会員2名, 海外会員4名), 名誉会員2名, 団体会員3名, 賛助会員2名(個人1名, 団体1名), 合計185名(2020年10月現在)。
- 2) 編集委員会関係状況
編集委員長より Diatom 35 巻が発行されたこと, 掲載論文の J-Stage への公開されていること, Diatom 36 巻の編集状況について報告された。
- 3) 会計状況
2019年度の決算が報告された。会計監査の鈴木秀和氏から当該決算が適正であることが報告された。
- 4) 今年度の研究集会および次年度大会について
今年5月に予定されていた第41回大会(つくば)は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施が不可能となり、中止された。第40回研究集会は、オンラインによる開催(12月5日, 6日)となった。
- 5) 日本分類学会連合総会参加報告
2020年1月11日(土)に国立科学博物館上野本館2階講堂で開かれた日本分類学会連合の年次総会に出井が出席した。2019年度及び2020年度の活動報告がなされた後、2019年度決算と2020年度事業計画, 予算, 次期役員について審議され, 提案通り承認された。
- 6) 日本珪藻学会学会賞の発表
 - ①令和2年度日本珪藻学会論文賞は, 34巻(2018)と35巻(2019)に掲載された論文を対象に(但し, 昨年度論文賞を受賞した論文を除き), 一次選考を経てノミネートされた4編について二次選考を行った。しかし, 過半数を超えた論文がなかったため, 今年度は該当なしとなった。
 - ②日本珪藻学会第40回研究集会最優秀発表賞: 研究集会終了時に発表し, 賞状を贈る。
 - ③令和2年度日本珪藻学会 功労賞: 推薦無し。
- 7) 会長・運営委員選挙結果
今年度末の任期満了に伴い, 次期会長及び運営委員選挙(2020年11月1日公示, 同24日締め切り)

が実施された。2020年11月27日に、東京海洋大学にて、会員の牟田神東陽奈氏, 吉岡夢生氏を立会人として開票された。その結果, 会長1名と運営委員9名(付則第2条第2項により, 同数により定員を超えたときには, 同数得票者全員を運営委員とする)が選出された。任期は, 2021年1月1日~2022年12月31日である。尚, 今後選出者に対して, 承諾の確認を行う。

会 長: 出井雅彦(次点: 鈴木秀和)
運営委員: 長田敬五, 齋藤めぐみ, 澤井祐紀, 鈴木秀和, 千葉 崇, 豊田健介, 伯耆晶子, 真山茂樹, 渡辺 剛(次点: 納谷友規, 広瀬孝太郎)

- 8) その他
 - ①学会事務局所在地の変更
2021年より現在の文教大学教育学部理科教育研究室を生物学研究室に変更する。
 - ②2021年度大会及び研究集会について
今後の新型コロナウイルス感染拡大状況が見通せないため, 現時点では全く未定であるが, 例年通り大会と研究集会を実施する予定である。大会については, 21年4月初旬までに実施方法をお知らせする。そのため, 例年より遅れ, 6月開催になるかもしれない。

【審議事項】

- 1) 2019年度決算
会計監査を受けた以下の決算が承認された。
2019年度決算(2019年1月1日~2019年12月31日)
- | 収入 | | 支出 | |
|--------|-----------|---------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 5,806,438 | Diatom34巻 印刷費 | 481,312 |
| 会費 | 630,000 | Diatom34巻 発送費 | 23,566 |
| 会誌売上金 | 10,000 | 庶務雑費 | 28,901 |
| 受取利息 | 65 | 大会開催助成金 | 100,000 |
| | | 日本分類学連合分担金 | 10,000 |
| | | インターネット維持費 | 8,174 |
| | | 日本珪藻学会 論文賞 副賞 | 10,000 |
| | | 次年度繰越金 | 5,784,550 |
| 合計 | 6,446,503 | 合計 | 6,446,503 |

- 2) 2020年度予算
以下の予算案が提案され, 予算が承認された。
2020年度予算(2020年1月1日~2020年12月31日)
- | 収入 | | 支出 | |
|--------|-----------|---------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 5,784,550 | Diatom35巻 印刷費 | 530,002 |
| 会費 | 832,000 | Diatom35巻 発送費 | 28,766 |
| 会誌売上金 | 10,000 | 庶務雑費 | 50,000 |
| | | 大会開催助成金 | 50,000 |
| | | 日本分類学連合分担金 | 10,000 |
| | | インターネット維持費 | 13,000 |
| | | 日本珪藻学会 論文賞 副賞 | 10,000 |
| | | 論文査読謝礼 | 60,000 |
| | | 次年度繰越金 | 5,694,735 |
| 合計 | 6,626,550 | 合計 | 6,626,550 |

- 3) その他

IV. 日本珪藻学会第40回研究集会

2020年度日本珪藻学会第40回研究集会は、2020年12月5日(土)から6日(日)まで、オンライン会議

ツール Zoom を使用して開催された（実行委員：出井雅彦，豊田健介，佐藤晋也，渡辺剛）。今回はオンライン開催のメリットをいかし，海外で珪藻研究に携わる研究者の招待講演を企画し，それぞれの研究分野の紹介や最新の知見について現地から発表して頂いた。招待講演は，ニュージーランド・西村朋宏博士ほかによる「ニュージーランド沿岸域における浮遊性珪藻 *Pseudo-nitzschia* 属の遺伝的多様性と記憶喪失性貝毒産生能」，ドイツ・山田規子博士ほかによる「珪藻グルメ学～盗葉緑体性渦鞭毛藻 *Durinskia capensis* における珪藻嗜好性とその用途多様性～」，アメリカ・池端慶祐博士による「珪藻と造水処理—汽水域珪藻がアメリカの水不足を救う」の3題であった。また，一般講演は17題，そのうち39歳以下の若手発表が11題であった。いずれの発表においても当初危惧された技術的な障害によるストレスはほぼなく，従来の研究集会と比べても遜色ないスムーズで活発な議論がなされた。1日目のオンライン総会の後は，Slack や Zoom を使った懇親会や意見交換の場も提供され，研究に関する意見交換から始まり，話題は学会の今後の方針にも及び，遅くまで熱い議論が交わされた。

2日目の最後に本研究集会優秀講演賞として，上里有紀博士ほかによる「北太平洋及びベーリング海における *Proboscia* 属の seasonal forms の観察と新種の報告」が選ばれ，出井会長による表彰が行われた。

研究集会には72名の会員・非会員が参加し，初のオンライン研究集会という特殊な開催であったにも関わらず，目立ったトラブルもなく盛況のうちに終えることができた。これは関係者によるご尽力，参加者による事前の動作確認やルール遵守といったご協力の賜物であり，実行委員を代表して心より感謝申し上げる。

V. 2020年度編集委員会

2020年度日本珪藻学会編集委員会が12月5日（土）9時より Zoom によりオンライン開催された。出席者は，出井雅彦（会長），佐藤晋也（編集委員長），大塚泰介委員，齋藤めぐみ委員，辻彰洋委員，澤井祐紀委員，納谷友規委員，渡辺剛委員であった。

【報告事項】

- 1) Diatom 第35巻（報告）
 - ・総ページ数102ページ。論文9編（原著5編），第40回大会・第39回研究集会のプログラムと要旨，会務報告，英文論文の和文摘要。
 - ・論文の掲載は基本的に受理順とした。
 - ・引き続き印刷を（株）国際文献印刷社に依頼した。
- 2) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について（報告）
 - ・受理された論文から順にPDFをJ-Stageにアップしている。
 - ・33巻掲載の全論文について，2019年12月末日よりフリーアクセスとした。また，即時公開権が購入された論文については，34巻，35巻についてもフリーアクセスとしている。
- 3) 第36巻編集状況（報告：2020/12/5現在）

受理論文：

- ①（短報）Taisuke Ohtsuka, Daisuke Kitano: Diatom flora of a wet grassland on mineral soil conserved in the Ritsumeikan University Biwako-Kusatsu Campus in Shiga Prefecture, central Japan.
- ②（短報）山本真里子，大塚泰介：藤前干潟の珪藻植生に関する報告
- ③（原著）Takashi Chiba, Rika Nishiuchi, Akihiro Tuji: Characteristics of airborne diatoms in the lower atmosphere: A case study in Hachirogata reclaimed land during August 2019 and January 2020.
- ④（原著）Tatsuya Hayashi, Masao Ohno: Diatoms in upper Pliocene-lower Pleistocene sediments, subpolar North Atlantic: 2. *Eupyxidicula atlantica* sp. nov.
- ⑤（原著）Hiroyuki Tanaka, Hidekazu Suzuki, Tamotsu Nagumo: Taxonomic study of fossil pennate diatoms in Futuro Formation, Setana, Hokkaido, Japan with the description of *Cocconeis setanensis* sp. nov. and re-classification of three taxa.
- ⑥（原著）Megumi Saito-Kato, Yukio Yanagisawa: A non-marine *Actinocyclus* species from a volcanic ash layer in the middle Miocene Otogawa Formation in the Yatsuo area, Toyama, central Japan.
- ⑦（短報）佐藤善輝，高清水康博，卜部厚志：仙台平野における2011年東北地方太平洋沖地震の津波堆積物および津波前の土壌堆積物中に含まれる珪藻。
- ⑧（研究ノート）渡辺剛，南雲保，田中次郎，田所和：無縦溝珪藻 *Meridion circulare* (Greville) C. Agardh (Tabellariales, Tabellariaceae) における節板の形態とその形成過程。

受付，審査中：なし

リジェクト：なし

- 4) 編集委員会体制（2019年，2020年）

編集委員長：佐藤晋也（福井県立大学）
編集委員：大塚泰介（滋賀県立琵琶湖博物館），齋藤めぐみ（国立科学博物館），澤井祐紀（産業総合研究所），辻彰洋（国立科学博物館），納谷友規（産業総合研究所），渡辺剛（水産研究・教育機構）
- 5) 投稿規定の改訂について

フロラ論文の参考論文引用方法の変更やフォーマット変更等を含む，改訂版投稿規定を作成した。改訂版投稿規定は学会HPにて公開し，36巻の末尾にも掲載する。本改訂版の英語訳についても山形大学 Jordan 先生に依頼中であり，こちらについても完成し次第HPにて公開する。

【審議事項】

- 1) DIATOM 出版区分の整理

出版の区分は原著，総説，短報，研究ノート，雑報と多岐にわたる。これにより著者による区分選択に際し高い自由度を担保している反面，どの区分が

適しているか分かりにくい側面もある。そこで、それぞれの区分の狙いやこちらが期待する内容・データや文章量について、分かりやすくまとめたものを学会誌 HP で公開することとなった。

2) DIATOM 超過ページ代について

超過分のページ単価として設定されている 5,000 円が適正であるか、現在の印刷にかかる費用を考慮して検討することとなった。場合によっては超過ページ代の見直しや、若手研究者に対する支援制度についても検討する。

日本珪藻学会賛助会員

パリノ・サーヴェイ株式会社

〒375-0011 群馬県藤岡市岡之郷字戸崎 559-3

☎ 0274-42-8129

日本ケイソウ土建材株式会社

〒191-0012 東京都日野市日野 270-4

☎ 042-843-2877